

自分でカーオーディオ・サウンドチューニングをマスターせよ!!

平成15年9月12日第三種郵便物承認 2015年11月30日発行(隔月奇数月30日発行・隔月奇数月30日発売)

カーオーディオマガジン

car audio magazine



Brand New
レインボウ
DSP1.8+WIFI Module

[2015.Nov.] **11**
vol.106

調整に ノウハウあり!!

電氣的サウンドチューニングで
ワンランク上のステージを楽しむ。



- 第一部
- オーディオコンベのEMMA CDを使った超ベーシック調整スタイルをマスターする
 - ダイアトーン・サウンドナビによる調整で純正スピーカーに確かな定位を生み出す
 - 充実の調整機能を備えたパワーアンプで純正ヘッドユニットの可能性を広げる
- 第二部
- 情報は音楽ソースの源!
 - フロント3ウェイの調整テクニックを検証
 - 正確なタイムアライメントの調整により定位に優れたステージングを構築

初心者講座

ドア・デッドニングでスピーカーの能力をアップ!
制振・防振処理ってホントに必要?

"いい物買えば、いい音がするってわけじゃない"
カーオーディオは鳴らしてナンボ

PART3:サブウーファー編

[人気連載中]

最先端のデジタル音源を車内で楽しむ
ハイレゾStart-upガイド

How to make a staging

はじめの一步、フロントスピーカー専科!!

DIY講座 Custom 2way speaker install
高音質なスピーカーでカーオーディオライフを満喫する方法
フロント2ウェイスピーカー交換

BEWITHSTATE » STATE A6への換装によるサウンドの進化を体感する

交換作業はスピーディー&スマート



元々付いていた「BEWITHSTATE」を取り外す。RCAなどの配線類や電源などを脱着して本体を取り外す。交換作業はいたって簡単。



取り付けスペースに「STATE A6」を設置する。同サイズ&端子のレイアウトも同じなので、設置スタイルもまったく同じでOK。



今回の比較試験を実施したカーオーディオスタジオ。BEWITHSTATEからSTATE A6への進化のように加工を加えることなくシステムアップすることができる。ビーウィズ製品の特性を知り尽くし、ユーザーに合わせたシステム提案をすることも定評がある。

【カーオーディオスタジオ】
大阪府寝屋川市池田北町 22-9
Tel.072-827-0045、0120-0045-18
営業時間：10:30～21:00 定休日：火曜

音が出た瞬間に感じる高い質感が印象的

新旧プロセッサの比較試験をカーオーディオスタジオが製作したユーザーが実践してみた。スピーカーやパワーアンプなどのユニットは変更せず、プロセッサのみを「BEWITHSTATE」から「STATE A6」に変換することによってサウンドがどう変化するかを体感取材した。

最初に「BEWITHSTATE」で試験を実施。みずみずしく輪郭の明確さが際立つ心地よいサウンドで、レベルの高い取り付けと調整を感じさせる。次に「STATE A6」換装を実施。交換はあっという間に終わる。ぐさま試験に入る。すると音が出た瞬間に「質感」が違っているのを感じる。デジタルっぽさとは対極にある極めてナチュラルなサウンドが心地よい。フォーカスもより一層引き締まったものになっている。先代プロセッサでも十分にレベルの高かったサウンドだが、より完成度が高まった印象だ。

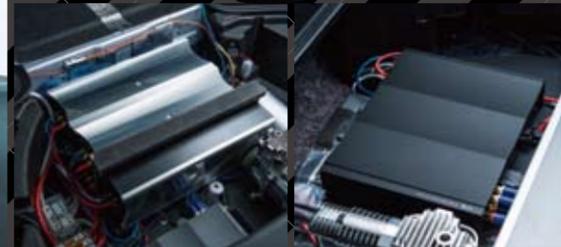


カーオーディオスタジオの桑野さんに新旧プロセッサの換装作業をお願いして比較試験を実施。周辺のユニットが同じ条件でプロセッサだけを交換することで音の違いを明確に体感した。

換装テストを実施した車両はこちら

重心の集中化を図るユニットレイアウトなどスポーツモデルとオーディオを融合させる

ベース車：フェアレディZ
オーナー：笹尾宗二さん



スピーカーにはコンフィデンスIIサンライズ。アンプはアク્યレートのA110S BS01 Limitedを5機用いるシステムで高音質を獲得。さらなる高音質化を狙って今回のシステムアップでプロセッサをBEWITHSTATEからSTATE A6へと進化させることを選択した。

ビーウィズの新旧プロセッサを比較して 確実なクオリティアップをチェックする

ビーウィズの新プロセッサである「STATE A6」と先代モデルとなる「BEWITHSTATE」を換装して新旧比較を実施。サイズも端子レイアウトも同じ両モデルだけにユニットの変更も簡単だ。



BEWITH® STATE A6

●問い合わせ先 ビーウィズ Tel.0942-85-8000 <http://www.bewith.co.jp/>
Photo. 伊勢馬場建次、Txt. 土田康弘

登場以来高性能プロセッサとして高い人気を集めているビーウィズの「STATE A6」。高音質かつ高い調整能力を誇り、多くのユーザーから信頼を集めているユニットだ。

そんな「STATE A6」を生み出したビーウィズは、これまでも数々のプロセッサを登場させてきた。そこで今回は同社のプロセッサの進化の程を、新旧モデルを比較することで検証することを実践してみた。

対象としたのは「STATE A6」の先代モデルである「BEWITHSTATE」。両モデルは同サイズで端子配置も同じなため交換設置もごく簡単。音質アップを狙うユーザーにも魅力的なユニット進化と言える。

「BEWITHSTATE」から「STATE A6」への進化のポイントには各部のパーツや回路のブラッシュアップ。中でもデバイスメーカーとの共同開発で作り上げたオリジナルのオペアンプが音質面に於いて効果絶大だ。またマグネシウムボディの採用は聴感上のSNアップなど、全域でその効果を感じられるポイントでもある。

そんな進化を体感するべく「BEWITHSTATE」に換装して、そのサウンドの向上を実感してみようとした。



「STATE A6」の「BEWITHSTATE」からの進化ポイントについて、ビーウィズ国内統括部長である中島謙氏にうかがった。

先代モデルからの進化はどんな影響を与えたのか？